

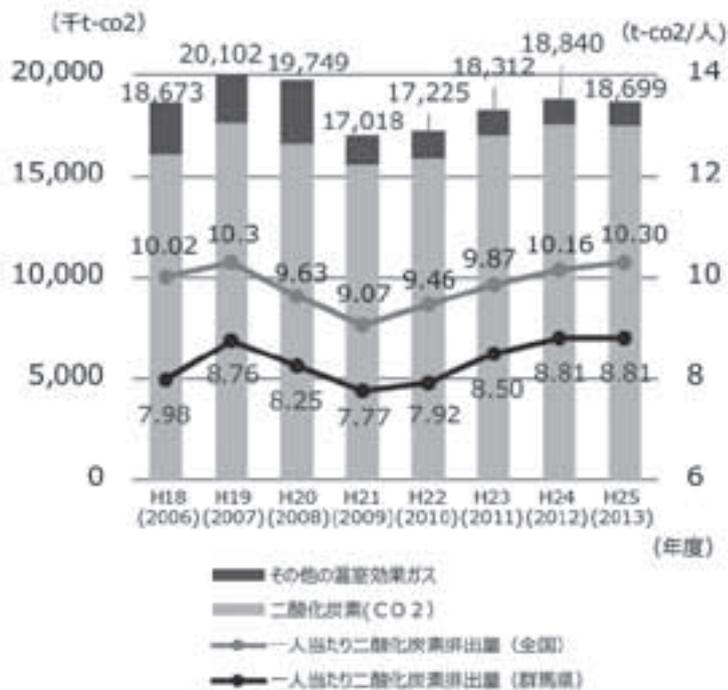
- 1 温室効果ガスの排出削減による低炭素社会の実現
- 2 再生可能エネルギーの普及・拡大
- 3 二酸化炭素の吸収源対策
- 4 フロン類の排出抑制による温暖化対策

第1節 温室効果ガスの排出削減による低炭素社会の実現

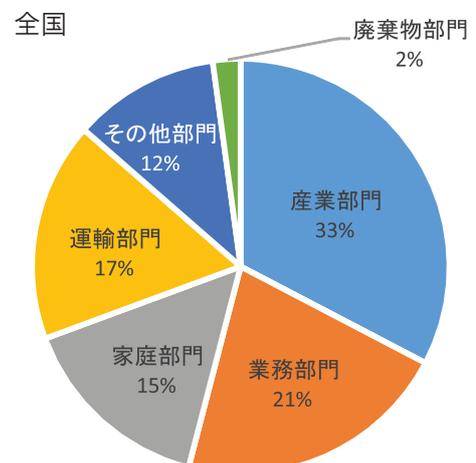
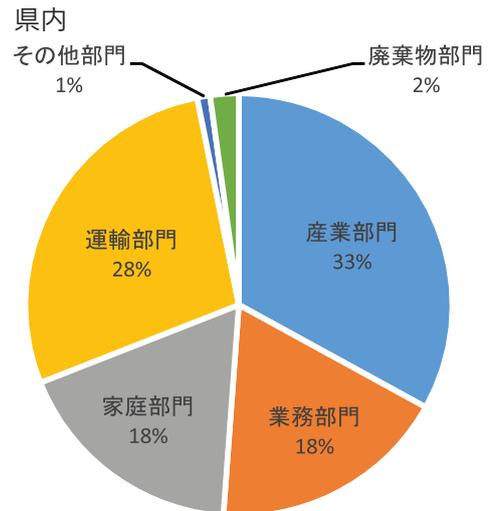
■ 現状と課題

- 人間の活動に起因する地球温暖化は、異常気象の頻発、生態系への悪影響、食料の減産、海水面の上昇、感染症や熱中症の増加など、様々な変化をもたらし、1980年代から、人類の生存にも重大な影響を及ぼすおそれがあることが指摘されています。
- 将来の県民に良好な環境を引き継ぐため、温室効果ガスの発生をもたらす化石燃料に依存した社会から、地球環境への負荷が少ない低炭素社会への転換を図っていく必要があります。
- 東日本大震災後のエネルギー情勢の変化により、電力1 kWh当たりの二酸化炭素排出量が増えているため、震災後は二酸化炭素排出量の削減が進んでいません。特に業務・家庭部門からの排出量が増えています。
- 本県は自動車交通への依存度が非常に高く、運輸部門における二酸化炭素排出量の割合が全国値に比べて約10ポイント高いことから、自動車交通対策についても積極的に推進する必要があります。
- 環境に関する県民アンケート結果では、「地球温暖化に関心がある。」との回答は91.8%で、非常に関心が高いことがうかがえます。

温室効果ガスの県内排出量と
一人当たり二酸化炭素排出量の推移



二酸化炭素の部門別排出量の割合
(H25(2013)年度)



(資料:環境エネルギー課)